



海外子女教育だより

気球船



海外子女教育総合HP: http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/main7_a2.htm

第230号

平成23年8-12月
文部科学省
初等中等教育局
国際教育課
編集・発行
初版発行昭和62年12月

◇◇ 目次 ◇◇

■世界の窓

ニューヨーク国際交流ディレクターの任を終えて

文化庁長官官房国際課国際文化交流室長 井上恵嗣・・・1-4

■特別寄稿

第18回フランス地区補習授業校講師研修会報告

日仏文化学院パリ日本人学校長 永沢 敦志・・・5-6

■トピック

補習授業校中学部のための指導資料作成に関する検討会について 在外教育施設指導係・・・7

■お知らせ

人事異動のお知らせ

庶務・助成係・・・7



世界の窓



ニューヨーク国際交流ディレクターの任を終えて

文化庁長官官房国際課国際文化交流室長 井上恵嗣

■はじめに

平成20年9月から約3年間のニューヨーク地域での国際交流ディレクターとしての職務を終え、7月末に帰国いたしました。

本稿では、3年間の活動内容について振り返るとともに、在外教育施設について感じたり、考えたりしたことを綴りたいと思います。

■ニューヨーク地域の国際交流ディレクター

ニューヨーク近郊地域には、ニューヨーク日本人学校、ニュージャージー日本人学校、ニューヨーク補習授業校、ニュージャージー補習授業校の4校の在外教育施設があり、ニューヨーク国際交流ディレクターは、それら4校を担当することになっていました。

上記4校の設置母体であるニューヨーク日本人教育審議会(以下、教育審議会)の下に、実際の運営主体として、ニューヨーク地区には教育管理委員会が、ニュージャージー地区には学校運営委員会が置かれています。国際交流ディレクターは、同教育審議会理事会の

オブザーバーとして、また、両地域の委員会の委員としての役割を担っていましたが、日頃は教育審議会の下に置かれている教育文化交流センター(The Japan Education Center)に勤務して活動を行っていました。

■教育文化交流センター

教育文化交流センターは、平成5年に設置され、大きく①教育相談活動と②文化交流活動を中心に活動を行っています。

《教育相談活動》

教育文化交流センター内に教育相談室を設置し、日米の専門的資格を有する2名の相談員で対応しています。

アメリカは日本人にとっては馴染みが深い国ではありますが、やはり異文化には違いなく、個人差はあるものの、子どもだけではなく、親もストレスを感じつつ生活しています。教育相談室にも、このような親のストレスがもとで子どもの状態が悪化し、問題行動が見られるようになったと考えられるケースも見られます。そのような場合には、子どもとともに、親に対する養育ガイダンス等も並行して行いながら対応しています。

教育相談室は、ニューヨーク日本人学校内に置かれていたため、同校の特別支援学級「アップル学級」の担当教諭とも緊密に連携を図っていますが、2年前からは、ニュージャージー日本人学校でも月2回のペースで、「1日スクールカウンセラー」として相談員を派遣しています。また、補習授業校での入学予定者に対する行動観察時に相談員も同席し、入学後の指導方針や対応について助言を行っています。

《文化交流活動》

バブル崩壊前の日系企業のめざましい米国進出に伴い、当地でも日本人の子どもたちが急増し、公立の現地校がその受け皿となって対応に苦慮するという状況が生まれました。当地の公立学校は無償ですが、多くは2～3年で帰国する日本人児童のために、現地校ではESLをはじめ体制を強化するための財政負担等の必要が生じ、当時の教育関係者や現地の保護者の対日感情が悪化する場面もあったようです。これには、日本人社会全体の問題として、駐在企業を含め対日理解促進のための取組が行われました。

また、教育文化交流センターがあるニューヨーク日本人学校は、コネチカット州グリニッチに位置しますが、ここは米国有数の高級住宅地域であるため、平成4年に当地に移転するに当たり、地域住民から反対運動が起こりました。移転後も様々な制約の中で教育活動が行われましたが、同校と教育文化交流センターが協力しつつ、地域交流・地域貢献活動等を行うことにより、次第に地域の方々への同校、ひいては日本社会への理解が深まってきました。

現在では、ニューヨーク日本人学校、ニュージャージー日本人学校、ニューヨーク補習授業校、ニュージャージー補習授業校において、それぞれ独自に、様々な文化行事や学校間交流がしっかりと教育計画の中に根付き、国際交流・国際親善や子どもたちの現地理解を促進するとともに、地域の対日理解を深める有意義な活動が行われています。



(写真1)

教育文化交流センターでは、地域の団体等と連携しながら、文化紹介ワークショップや桜まつり等の文化行事を行っています。その際、派遣教員のみならず、その配偶者の方々



(写真2)

にも多大な協力・活躍をいただきながら推進しました。

その他、当センターでは、日本文化を紹介する物品を多数管理しており、現地校や地域交流会・各種イベント等で日本文化を紹介する際に、無料で貸出を行っており、好評をいただいています。

■国際交流ディレクター制度の廃止

このような活動を行っている中、国際交流ディレクター制度の廃止の報を受け、過去約20年間積み上げてきた教育文化交流センターの今後について、大変危惧しました。しかしながら、教育審議会の会長・理事をはじめ関係者の方々の御理解・御支援により、教育審議会事務局長の指導の下で活動を継続できることになり、本センターを教育審議会事務局に移転統合する作業を最後の職務として帰国した次第です。

国際交流ディレクター制度が20年という節目で廃止になったことは、各在外教育施設において、現地理解教育、国際交流活動がしっかり定着してきたことの現れでもあるといえます。ニューヨーク・ニュージャージー地区においても、派遣教員は数年ごとに交代しますが、その経験とノウハウが年々の反省点を加味しつつ確実に受け継がれていることを感じました。

海外で生活し、勉学に励むということが子どもたちの将来にとって大きな意味を持つよう、今後とも、在外教育施設における現地理解教育、国際交流活動が益々充実していくことを願ってやみません。

■在外教育施設派遣教員の方々への思い

ニューヨーク地域では、多くの派遣教員の方々と出会い、ともに仕事し、また、助けていただきました。はじめて日本の子どもたちや先生方の近くで仕事できたのが海外だったというのも少し皮肉ですが、祖父のような教員になろうと進学し、ちょっと道を外れて文部省（当時）に入省した私にとっては、大変貴重で楽しい日々でありました。

その間、派遣教員の方々の働きぶりには、いつも感心しておりました。派遣教員の皆様は、慣れない海外生活の中で、ご苦勞も多いと思いますが、常に子どもたちの健やかな成長を念頭に真摯に職務に当たっていただいていることに対し、改めて御礼申し上げます。

子どもたちと同様、先生方も海外で生活し、職務に当たる意義を噛みしめながら日々を送っていただければと思います。働き盛りの先生方を数年間、海外に送り出している各教育委員会の在外教育制度への御協力は、先生方の職能成長と、当該所属地域への先生方の知見の還元を見込んだものであることを忘れてはなりません。

そのため、派遣国・地域の歴史や文化、そして教育事情に関して貪欲に情報収集するとともに、授業の方法や学校行事について、日本ではできなかった新たな挑戦も行っていただきたいと思います。

我々日本人が海外に出た場合、広い世界に出たはずが、国内にいた時より狭い日本人社

会の中で生活する場合も多いのではないのでしょうか。そのため、配偶者を含め、人間関係のトラブルが、職務にも影響を及ぼす場合も十分考えられます。そのような場合は、海外の子どもへの充実した教育環境の提供という原点に立ち返って、学校長の下、チームワーク良く学校運営に取り組んでいただきたいと思います。

また、海外では配偶者の役割も、より重要となります。実際、教育文化交流センターの活動は、派遣教員の配偶者の方々のボランティアなくしては考えられませんでした。ボランティアはあくまで自発的意志に基づくものですし、お子様がまだ幼少期であるなど各々事情は異なるとは思いますが、可能ならば、派遣教員の配偶者も積極的に学校や地域のためにボランティア活動に参加されることを期待しています。



(写真3)

■ 在外教育施設のこれから

総領事館で教育担当領事をしていた時期も含め、在外教育施設に関わるようになって以来、日本人学校とは何ぞや、補習授業校とは何ぞや、と自らに問い続けてきましたが、未だに明確な答えが見つからず現在に至っています。特に補習授業校については、いわゆる永住者の方々の子どもの割合が増加していく中で、その在り方の整理が求められていると痛感しました。

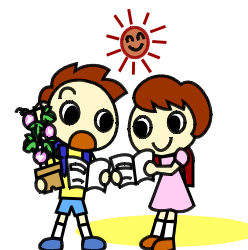
いずれにしても、グローバル化が進展する一方、地盤沈下が見られる我が国の再生を目指す時、日本人学校、補習授業校の存在意義と可能性は益々大きくなってきていると言えるでしょう。

ある関係者が、在外教育施設は「日本の教室を教員ごとそのまま海外に持ってくるという、究極の遠隔教育」であると言っていました。様々な課題を抱えているものの、文部科学省、外務省、そして各地域の教育委員会が一致協力して全世界に展開している我が国の在外教育制度は、世界に誇って良いものであると思います。

そして、この在外教育制度が今後更に充実していくためには、多くの方々にその実態と可能性を理解していただくことが土台となります。是非、派遣教員の方々には、帰国後も自らの海外での経験と成果を積極的に発信していただき、海外に出て子どもたちのために頑張ってみようと思う国内の教員が一人でも多く増えることを望みます。

私自身も国際交流ディレクターの任務を終えましたが、今後とも、在外教育施設の実態を多くの方々に伝える努力を続けるとともに、在外教育施設とは何ぞや、と問い続けていきたいと思っています。

- ◆ (写真1) 桜祭りで活躍する派遣教員
- (写真2) 派遣教員の配偶者による現地校訪問
- (写真3) 教育文化交流センタースタッフと





特別寄稿

第18回 フランス地区補習授業校講師研修会報告

日仏文化学院パリ日本人学校 校長 永沢敦志

1 はじめに

去る7月8日（金）パリ日本語補習校を会場にフランス国内15校の補習授業校を対象に講師研修会が開催された。本研修会の目的は、本邦から教員が派遣されていない補習授業校における現地採用の講師を対象に、教員として求められる学習指導の内容・方法等の基礎的・基本的事項について研修を行い、その資質及び指導力の向上を図り、もって、補習授業校における邦人の児童生徒への教育の充実に資することを目的としている。それを受けて、パリ日本人学校の校長、教頭が中心となって毎年交替で講師として赴きその務めを果たしている。今年度は、本校教頭が提案授業の助言者や講義の講師として参加すると同時に、15校の補習授業校の現状把握に努めた。

2 講義のテーマ及び講義の内容について（※テーマは、幹事校と協議の上決定）

（1）講義のテーマ「ちょっとした工夫により授業が変わる」～楽しい授業、分かる授業～

（2）講義の内容

①指導経験の浅い講師が多いことから「限られた年間の授業時間で、1冊の教科書をどのように活用して指導するか」に視点を絞り、パリ日本人学校派遣教員の教育実践のビデオを視聴しながら授業の工夫点や補習授業校でも活用できる指導方法を参加者と確認した。②日本語（国語）教育に携わる講師が多いことから、学習指導要領改訂のポイントとしてあげられている「言語活動の充実」について触れ、具体的な指導方法について示した。



（写真1）

3 補習授業校の抱える課題について（現状把握のためのアンケート調査より）

（1）ハード面での課題 ※【 】内の数値は課題に該当する補習授業校の数

・教科書の不足【4】（例：途中入校者への教科書確保）・指導書の不備【5】・指導書の不足【5】・教材教具の不足【5】（例：和洋楽器、実験器具、体育用具、日本の季節の行事に関する道具、インターネット等）・パソコン等情報機器の不足【2】・コピー機、印刷機の不備【5】・教室の不足【6】（例：教室を借りているため毎回教材を運び入れなければならない。教室掲示ができない含）・机、いすの不足【4】（子どものサイズと合わない含）

（2）ソフト面での課題

・児童・生徒の人数不足【9】・児童生徒の学習規律不足【6】・保護者との教育方針の不一致【9】・教職員の不足【3】・他の教職員との指導方法や児童生徒に関する情報交換の時間の確保の困難【4】・指導に関する情報入手や研修機会の確保【7】・限られた年間の授業時間内での指導【15】

4 補習授業校講師の声（一部紹介）

・日本企業が撤退し、駐在家庭が減少したため、人員削減と日本からの補助費等の削減で財政難です。また、詰め込み授業を行っても1年で教科書を終了するのは大変難しいです。

・日本に帰国した時、困らないレベル・・・という要望に応えられず困っています。3時間という限られた時間で複数クラスをどのように運営していけばよいか毎回悩んでいます。

・毎週遠いところから頑張って来てくれる子どもたちから元気ももらいます。子どもたちはフランスの学校の宿題がたくさんあるにもかかわらず、漢字練習を頑張って行うため、大変教え甲斐があります。

・補習授業校は、様々な生育歴をもつ子どもたちとの出会いの場です。試行錯誤しながらそれぞれの子どもの日本語の進歩を目指しています。厳しいながらもやりがいのある仕事です。兼職の教員が多いため、授業準備の時間確保が課題です。

・子どもたちは、親の仕事の関係で何もわからないフランスの学校で1日勉強しなければならず、ストレスが溜まって落ち込んでいることが多いです。子どもたちが補習授業校に来ると日本語で勉強できるため、自信を取り戻し表情が明るくなってきます。そんな子どもの姿を見る時、補習授業校の意義を感じます。



(写真2)

5 おわりに

研修会当日の参加講師の講義に臨む姿勢や「アンケート調査」「補習授業校講師の声」から、厳しい条件下で教育活動に携わっている講師の方々の教育への熱い情熱が感じられる。その情熱に応えるべく、フランスで唯一の日本人学校として、本校への学校訪問や授業参観、教材等の資料の閲覧等を積極的に受け入れ、補習授業校15校とさらなる連携を深めていきたい。



(写真3)

◆ (写真1) パリ日本人学校、佐藤義朗教頭による講義「ちょっとした工夫により授業が変わる」

(写真2) 3つの分科会の様子 (以下、各分科会のテーマ)

1 集中力を続かせる工夫 2 日本語習得の目的とレベル設定 3 家庭学習～内容と量、日本語環境の充実～

(写真3) フランス国内15校の補習授業校講師陣





補習授業校中学部のための指導資料作成について

在外教育施設指導係

昨年7月から行われた「補習授業校中学部のための指導資料作成に関する検討会」が12月16日に行われた第3回をもって終了しました。

指導資料集の内容（板書計画、学習の流れ、指導のポイント等）を中心に国語、数学の基本的な考え方、教育観、指導方法等、様々な角度から議論していただきました。それを踏まえ、「補習授業校のための指導資料集（中学校国語・数学）」（DVD）を作成し、3月上旬に発送する予定です。



◆庶務・助成係

以下のとおり人事異動がありましたのでお知らせします。

【10月1日付け】

（転出）

浅上 修嗣 外国語教育推進室企画調整係 → 財務課定数企画係

（転入）

山口 利行 初等中等教育企画課教育制度改革室義務教育改革係

→ 外国語教育推進室企画調整係

【10月21日付け】

（退職）

中嶋 恭子 教職員派遣係 → 退職

【11月1日付け】

（転出）

山上 有紀子 日本語指導係主任 → 特別支援教育課指導係主任

（転入）

高野 眞奈美 特別支援教育課 → 日本語指導係

（採用）

高尾 裕美 新規採用 → 教職員派遣係

【12月5日付け】

（転入）

小西 可那子 財務課高校修学支援室企画係長 → 専門職



国際教育課「気球船」編集部より
本誌へのご意見、ご感想をお待ちして
います。

下記までご連絡ください。

連絡先E-mail : kokukyo@mext.go.jp

こちらも随時募集中です。

○投稿記事

(原稿料は出ません。ご了承ください。)

○新規配信依頼

◆編集後記◆

2011年を振り返り、人と人とのつながりの中で海外で学ぶ子どもたちの学習の場が確保されていると感じました。

ぜひ、2012年も様々なネットワークを構築していただき、また、そのサポートをさせていただければと思います。今後とも宜しくお願いします。(S)

